

協賛 ST の訪問支援に関するこれからの打合せ会議を 22 日と 29 日の 2 回に渡り行った報告を記載します。

22日は、協賛 ST の打ち合わせでの助成事業を如何に周知するか、以下の案ができました。

- ・メディアを使って周知する。
- ・教育委員会からの学校の教師向けの研修会や地域でつながっている学校へ伺って助成事業を知ってもらう研修会。
- ・不登校や引きこもりに携わっている地域の関係機関への周知。
- ・広報誌の発行での周知、などが話し合われる。
- ・各訪問看護ステーションとつながっている地域の関係機関に助成事業を直接対面して周知する。
- ・訪問看護ステーションの看護師の包括的な支援を知ってもらうイベント開催。ということが話される。

29日は、法人の助成事業スタッフの瀬戸口氏からひきこもり家族会の楠の会の会長に会って事業の説明などする中で、楠の会の研修会で今回の事業の訪問看護師の支援の在り方を説明してほしいという要望などを説明して頂きました。

また、訪問支援において自宅に伺うことが子供にとってより閉ざすことになるひきこもりの例について話し合う。

3 回目の研修会の講師の山根氏の家族支援では親とは自宅ではなく居場所で会って相談を受けることに終始するのは、子供との関係において親を敵とみなしている状況だと自宅で支援者と会えば親の仲間とみなされることで支援を拒む流れになるので、そのような親子の関係だと自宅ではなく自宅外で会うことを想定して接触することも大事な支援の方法と思えます。

訪問による最初の支援は子供より親の支援になると思えますので、傾聴を中心に親の気持ちが明るく変わっていくことが子供に対する言動にも影響するので、親の気持ちを和らげる為の声掛けをしていただきながら子供に対する接し方にもアドバイスをさせていただくことで、子供が親に対して親しさを感じられることになる対応を実践することで、従来の親子関係による否定や批判や上から目線といった言動を避けて子供の意思を受け入れる言動をすることで、子供の心が徐々に開かれていけばよいので焦らず支援計画は親をメインに実施しながら子供の様子も確認しながら進めていけたらよいと思っています。

今回の会議で、それぞれの立場で積極的に助成事業を推進するために提案を頂き、これからの訪問支援を実施していくうえで、地域の関係機関と具体的な連携をしていくことが望まれる意見でした。

法人として、地域支援機関に助成事業の説明に伺い、より理解をしていただき連携を推進していく計画ですので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。